

目次

田上時子のエッセイ 依存注意報	1
特集 メグさんインタビュー ～性的に成熟したおとなとは?～	2～3
活動報告 大阪市中央区 HIV 予防キャンペーン 2008 に参加	4
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会/CR グループワーク	4
自分の安全を考えるワークショップ	
～人権を守るための「境界線」～<CAP みやぎ>	5
エルコラム⑤	5
リレーエッセイ 福間良子/井山里美	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ

**依存注意報**

G7 閉幕後の記者会見で「ありえない」中川昭一氏のテレビ映像（2月14日撮影）を見て、2つのことを考えた。

一つは、「映像は非情なもの」ということ。撮影画像に嘘はない。誰の目にも飲酒による酩酊であることは明らかだ。最初は風邪薬がどうのこうのと弁明したが、繰り返し放映される映像に、自身ギョとしたのだろう。その後、大臣を辞職。

もう一点は、「依存」について。

中川氏を知る官僚は「見かけによらずプレッシャーに弱いのか、大きな交渉の前に酒を飲まずにいられないようだった」と振り返るが、これまでも飲酒が理由で、政治活動に支障をきたす場面は多々あり、彼のアルコールへの依存ぶりは有名であった。

日本人は体質的にアルコールに弱い。厚生労働省によると、国内アルコール依存症は約80万人（2004年）という。

アルコール依存症とは、薬物依存症の一種で、飲酒などアルコールの摂取によって得られる精神的、

肉体的な薬理作用に強く囚われ、自らの意思で飲酒行動をコントロールできなくなり、強迫的に飲酒行為を繰り返す精神疾患である。

依存とは、他に頼って存在すること、生活することをいうが、対義語は自制とか克己とか自律だろうか。

人は誰しも一人では生きられない。加えて、不安が蔓延している現代社会はストレスフルであり、物質的な富こそが幸福を決定する「物質至上主義」による社会では、依存したくなる対象物には事欠かない。また、程度や内容によってはストレス解消に有効な場合もある。

結局、意思的に思考・行動できるよう日々精進に努めながら、同時にストレス対処法として安心・安全な依存対象をもつことをよしとする余裕を自らの中にもつというバランスが理想なのか。

ところで、仕事にばく進、酒の力を借りて職場のコミュニケーションを図ってきた団塊世代の男性たちよ。ご注意あれ！